

シカと闘う植物



シカは、色々な植物を食べます

現在、日本全国でシカの増加が問題になっています。この問題点は二つあり、一つは、畑の作物や牧場の牧草を食べて農家や酪農家に大きな経済被害を与えていることです。その意味では、イノシシ、サル、ハクビシンなどなど色々な野生動物が農業に被害を与える構図と同じです。

もう一つの問題は、森の下草を食べつくして、緑のダムと言われる森の公益的機能を損なうことが挙げられます。森の下草が無くなると、雨の時、植物の養分を豊かに含んだ表土が流され、草木が育ちにくい痩せた土地となり、最後には禿山になってしまいます。

時として、そのような森では、表土流失だけでなく、山崩れを引き起こすこともあります。過激な表現ですが、「国土崩壊」と表現する人もいます。幸い、あきる野ではこのような重大な被害は発生していませんが、安心はできないと考えています。



シカのご馳走

シカは草食のため、草本から樹木まで、餌となる植物は沢山あります。時には、コナラなどの落ち葉やリョウブ・ヒノキの樹皮を剥いて食べたりします。自ずと森の植生は、シカの好む植物が減り、好まない植物が増えるので、植生のバランスは崩れます。

シカは、匂いの強い植物は好まないと言われますが、春にミツバを食べた痕を見つけました。年ごとで食べる植物の種類が変わるようです。



シカは葉を食べる



シカと闘うヒイラギ

皆さんの知っているヒイラギは、写真①の葉っぱだと思えます。この棘は、ヒイラギの生きるための戦略と言われています。陰樹のヒイラギは、幼木の時代に暗い林床で育ちます。シカにしてみれば丁度、口の高さに葉が茂っていることになります。そのため、シカが食べにくくなるように葉に棘を持たせています。

棘のある葉は、丸い葉を作るより、エネルギーが必要で、生きるためのエネルギーを大きくロスすることになります。ヒイラギは、そこまでして葉をシカに食べられないように努力していることになります。

そして、樹高が高くなりシカの食害を受けなくなるとヒイラギの葉には棘が無くなり、柔らかい卵形の葉に変わります。街中で、防犯のためのヒイラギの生垣をよく見かけますが、写真②のようなヒイラギでは、防犯の意味を成さなくなります。しかし、見かける生垣はよく刈り込まれ、ストレスを与え続けているため、丸い葉は出現せずに、いつまでも棘のある葉を出し続けます(写真③)。

このように、移動して外敵から身を守ることができない植物の中には、防衛手段を持って生きている植物もいます。



多くの樹木は、シカやウサギなどの食害を受け、梢が無くなると沢山の芽を出して、刈り込まれた茶の木のように株立ちになります。
(写真④: アラカシ)

写真⑤の林床のボサボサは、普通に見られる林床の藪です。しかし、シカが侵入してくると、写真⑥のようにシカの顔の高さぐらいまで、枝葉が無くなります。シカの背丈で直線上に刈り込まれたようになります。このライン(赤い点線)がディアラインと呼ばれ、シカが生息している痕跡です。このような林床で、ヒイラギは食べられないように努力し、闘っています。(杉野)